

遷宮行事の 思い出と期待

日々、神宮さんへお参りに出掛け、
お木曳やお白石持にワクワクする伊勢の人々―。
伝統行事の続く町を誇りに思い、
神領民としての誉を感じています。

神宮さんわたし
伊勢のまちが
大好きです

北海道から家族で
憧れの地に移住！
大内さん一家



茂郎さん、かなえさん、麻白ちゃん、菜々桜ちゃん、葵翔くん

札幌から5年前に移住。「次のお木曳にはみんなで参加したいです」。
次女が0歳のときに伊勢に引っ越したかなえさんは、近所の方の声掛け
もあり、伊勢は子育てにいい環境だと感じています。そんなふれあひも
遷宮行事があるからこそ。顔の見える関係が築かれています。



麻白ちゃんは
ガールスカウトで
初穂曳に参加

引越して間もない夫婦を 受け入れてくれた団に感謝

野口 あゆみさん〔二見町山田原・川曳〕



お木曳時、野口さん夫婦は団の記録係を率先
して引き受けました。「趣味の写真を生かして、
地域での絆を深めることができました」。生まれ
も嫁ぎ先も川曳地区ですが、お白石持行事の
特別神領民のサポート隊（現・伊勢むすびの会）
として、陸曳に関わったこともよい思い出です。



康裕さん、早枝子さん、璃くん、興臣くん、興佑くん

お白石持奉獻では康裕さんは梃子方、早枝さんは
木遣り。次は家族5人で出ようとワクワクしています。
「お木曳2年次から木遣りとして参加するようになっ
て、地元の友人たちも里帰りして一緒に練習しまし
た」。住んでる人はもちろん、外へ出た人も戻って来
れるのが遷宮行事。つながりが深まったようです。

中野さん一家〔河崎旭通・陸曳〕



記録や記憶を埋没させず 100年先につなげるアーカイブを

板井 正斉さん 皇學館大学・お木曳行事調査団

遷宮行事や初穂曳を客観的に見て、調査報告書をまとめた板井
さん。「若年層で楽しいと感じた経験には継続性があり、肯定的な
捉え方ができています。祭りに関わることで責任感も生まれるでしょ
う」。理屈を超えた原体験こそが次世代へつなぐ手掛かりとなります。

お木曳分析！ 陸曳 御用材奉曳

まちの人々総出でそれぞれの役割を担う御
用材奉曳。奉曳団によって構成に違いは
ありますが、一般的な陸曳をご紹介します。

イラストレーション/ジャンティー



倭姫宮ご鎮座百周年
新たな歌詞で倭姫宮を祝う

倉田山から
もみじも祝う
倭姫さま
秋まつり

大御宝の
幸せ願う
国の礎

伊勢の宮

伊勢の木遣り唄は、
お木曳やお白石持だけでなく
祝儀歌として、神事や結婚式など
めでたい時にも唄われている。



令和5年11月5日、倭姫宮ご鎮座百周年記念奉祝行事（主催：倭姫宮御杖代奉賛会）にて日頃の練習の成果を披露しました。



古市

古市の町に高らかな唄声
行事のない時期も練習を続ける

月2回集まって、練習をする古市木遣り保
存会。「みんなで参加した初穂曳は6年
前、今回の舞台出演は励みになります」
と団長の成川さん。古市には他の川曳団
にはない「道中木遣り」が特徴です。長
い歌詞を力強く唄い終えた中学1年生の
岡山さん、中村さん、お見事！木遣り歴は
もう8年になるんだとか。



楠部

（大）の歴史を背負って立つ
若い衆が支える木遣り部隊

選ばれし11人が太い唄声を響かせる楠
部公民館。昔、内宮の火災に駆けつけた
功績から、旗印を（大）にすることが許され
た地区です。本番前の1ヶ月間、日曜毎
に練習し、倭姫宮奉祝のために新たな歌
詞もつくりました。木遣り衆には10年前
のお白石持に子ども木遣りで唄ったメン
バーも加わりました。



宇治

“内宮様”のお膝元
心意気を次世代につなぐ木遣り衆

毎年、宇治神社式会のとき、五十鈴川で
「子供川曳」があり、その指導や手伝い
に集まっているため、采を持てば息の合っ
た唄声を響かせる木遣り部。前回御遷宮
で、館・今在家・中之切・浦田と4地区
が合わさって一つの「宇治」となりまし
たが、それぞれで受け継がれた節回しや歌
詞を大事に継承しています。

力強く、しなやかに 木遣り唄

お木曳やお白石持には欠かせない

奉曳の場面や動きに応じて、さまざまな唄の種類があり、
歌詞や節回しにも団ごとの特色がある木遣り唄。特に奉曳
車や川曳そりの出発時には、力強く唄って、威勢をつけます。



宮川にある「ソンドン広場」。こ
れはお木曳の「ソンドン場」から
名付いたようで……。宮川から
ソリで引き揚げた御用材が、堤
防を越えるためにつくられるス
ロープがソンドン場です。その
坂を勢いよく上がって、お木の
水を切るためシーソーのごとく激
しく揺らします。これも、20年
一度のお木曳ならではの景色な
のです。



これって伊勢でしか
通じない？



市内の会社応接室で
見かける機会が多い
奉曳車のミニチュア！



代表取締役社長 西岡眞さん
堀崎組では、前回遷宮行事に会
長・堀崎さんの自宅があった尾
上町（陸曳）で、全社員が揃いの
はつぴで参加。「コロナ禍以前
は初穂曳にも参加・協力し、新



職場訪問 / 堀崎組

次号からも遷宮行事にアツイ職場を訪問いたします。

